

業績・会社情報等

ステークホルダーエンゲージメント	97
味の素グループのサプライチェーン	99
10年間の財務データ	101
パフォーマンスデータ	103
グローバルネットワーク	105
会社情報／株式情報／株価推移	107
外部評価／情報体系	108
用語集	109

ステークホルダーとの継続的な対話

味の素グループは、各ステークホルダーと様々な場面での対話を継続的に行っています。頂いたご意見を企業活動に反映し、「食と健康の課題解決」に向けた価値創出につなげるとともに、社会や地球環境のサステナビリティを実現するための活動にも活かしています。

主なステークホルダー	お客様・生活者 	株主・投資家 	取引先 
ステークホルダーからの関心・期待	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の安全・安心 ● 食と健康の課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公平で透明性の高い経営 ● 事業の持続的成長 ● 建設的な対話およびガバナンスの強化 ● 適時・適切な情報開示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能なサプライチェーンに向けた取り組みの推進 ● 公正な事業慣行
エンゲージメントチャンネル	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様相談窓口 ● WEBサイト ● 工場見学 ● イベントや講演を通じた生活者との情報共有・意見交換 ● 市場調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会 ● 決算説明会・IR Day・事業説明会 ● 機関投資家との対話 ● 個人投資家向け会社説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達方針説明会、サプライヤー監査 ● 企業倫理データのプラットフォーム「Sedex」に関する説明会 ● 取引先（流通・物流）との対話
成果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様の声を反映した、製品の改善 ● 食と健康に関する生活者の課題解決提案（減塩、野菜摂取の促進等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● WEBサイトにおけるQ&Aを含めた説明会動画の公開 ● 投資家のご意見の経営やIR活動改善への反映（IR Dayや事業説明会等を通じた当社グループの強みの説明実施等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本国内におけるコロナ禍の食生活や意識の変化の共有 ● 小売店舗や外食店におけるメニュー・店舗改善の提案等 ● サプライヤーとの対話による環境に配慮した包装資材の採用

主な ステーク ホルダー	従業員 	地域社会 	社外有識者 / NPO・ NGO / 業界団体等 
ステーク ホルダー からの 関心・期待	<ul style="list-style-type: none"> ● 人財育成 ● キャリア開発 ● ダイバーシティ&インクルージョン ● 働きがいの向上 ● 給与・福利厚生 ● 労働安全衛生 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の安全・環境保全 ● 地域の持続的発展 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誠実な対話および連携した活動
エンゲージ メント チャネル	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種の能力開発・研修 ● CEO・本部長との対話 ● 個人目標発表会 ● ASVアワード ● グローバルに従業員をつなぐSNS型プラットフォーム ● 味の素グループポリシー (AGP)に関する職場検討会 ● ホットライン (内部通報制度) ● ハラスメント相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工場の近隣住民との対話 ● 地域のイベントへの参加・協賛 ● 自然災害の被災地に対する復興支援活動 ● 財団を通じた支援 (3カ国) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社外有識者、NPO・NGO、業界団体との対話 ● ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム (CGF) における消費財メーカーやグローバル小売業との対話 ● 「食・栄養」分野で活動するNPO・NGOを支援する「AINプログラム」(財団を通じた支援)
成果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営と従業員の対話による労働安全衛生や給与・福利厚生等、労働環境についての相互理解促進 ● ホットライン等への相談内容に基づく職場の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域に存在する健康・栄養課題の把握およびその解決に向けた取り組み (特産野菜を活かした小売店店頭での野菜摂取提案、ベトナム学校給食プロジェクト、インドネシアの助産師向け栄養セミナー等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループポリシーやガイドライン・考え方の改定 ● 製配販の業界団体、行政と連携した、日本の加工食品物流の効率化・労働環境改善に向けた取り組みの推進 ● Workforce Nutrition Alliance への参加と職場の栄養改善活動の強化 

> 詳しくは「サステナビリティデータブック2022」をご覧ください。
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/databook.html>

サステナブルな社会の実現に向けた取り組み

味の素グループは、世界に広がるサプライチェーンの各段階で多様な関係者と関わり合いながら、事業を運営しています。各段階と関連の深い社会的課題・関心事やリスクを以下のように捉えており、関係者と共に着実な取り組みや対応を重ねることで、社会・環境課題の解決を目指していきます。

社会的課題・関心事

- 脱炭素社会への移行(気候変動対応)
- 生物多様性 ●水・土壌の保全、汚染防止 ●原材料ロス
- 農業における人手不足、農地確保
- アニマルウェルフェア
- 労働安全衛生 ●労働者の人権の尊重

リスク

- 食資源・水資源の枯渇による原材料調達不全
- アニマルウェルフェアや土地収奪、森林破壊への対応遅れによる原材料調達不全
- 原料輸送・保管時のロス増加
- 労働災害の発生
- 潜在的な人権リスク

社会的課題・関心事

- 脱炭素社会への移行(気候変動対応)
- 製品の品質と安全性
- フードロス ●水・土壌の保全、汚染防止
- 労働安全衛生 ●労働者の人権の尊重

リスク

- 意図的な異物混入による信頼低下
- 脱炭素への対応遅れによる環境負荷・コスト増や生産停滞
- 濁水・洪水・水質悪化による生産停滞
- 労働災害の発生
- 潜在的な人権リスク



原材料調達



生産



💡 味の素グループの取り組み

- 原材料の責任ある調達
(人権・環境デューデリジェンスの推進)
- コプロ*活用による持続可能な農業への貢献、
原材料ロスの低減
- トレーサビリティの確立および認証品購買の推進
- 品質保証活動の徹底

* アミノ酸生産時に発生する栄養豊富な副生物

💡 味の素グループの取り組み

- 排出係数の低い燃料への転換による
温室効果ガス排出量削減
- 生産工程でのフードロスの低減
- 水処理による循環利用の徹底
- 委託先の社会・環境監査の強化と課題解決に向けた協働
- 労働安全衛生マネジメント
- 品質保証活動の徹底

社会的課題・関心事

- 脱炭素社会への移行(気候変動対応)
- 物流業界の人手不足・高齢化
- EC増による物流量増加
- 労働安全衛生
- 労働者の人権の尊重

リスク

- 脱炭素への対応遅れによる環境負荷・コスト増
- 人手不足・労働時間の規制強化による物流遅延
- 労働災害の発生
- 潜在的な人権リスク

社会的課題・関心事

- 脱炭素社会への移行(気候変動対応)
- 公正な競争
- 責任あるマーケティング
- 顧客のプライバシー保護
- 労働安全衛生
- 労働者の人権の尊重

リスク

- 独占禁止法、競争法、食品安全・表示関連法違反等の法的リスク
- 不適切な広告、マーケティングによる信頼低下
- 個人情報保護、プライバシーへの配慮不足による信頼低下
- 労働災害の発生
- 潜在的な人権リスク

社会的課題・関心事

- 環境問題(気候変動、プラスチック廃棄物、フードロス等)
- 製品の品質と安全性
- 健康・栄養課題
- 情報の氾濫

リスク

- 製品の誤使用や健康被害
- 廃棄物やフードロスの増大による環境への影響
- 食と健康の正しい情報への理解不足



物流



販売



お客様

💡 味の素グループの取り組み

- モダシフトの推進
- 再生可能エネルギー使用比率の向上
- デジタル活用による業務の効率化や労働環境の改善等、スマート物流の実現に向けた他社や行政との協働
- 品質保証活動の徹底

💡 味の素グループの取り組み

- 独占禁止法等関連法規、贈収賄防止の教育
- 製品・サービス・情報のお客様への適切な届け方の実践
- 賞味期限延長やSCM*の精度向上等による返品・製品廃棄の削減
- 情報セキュリティの強化
- 品質保証活動の徹底

* サプライチェーン・マネジメント

💡 味の素グループの取り組み

- 「お客様の声」の製品・サービスの開発・改善への反映
- パッケージやWEBサイトでの適切な情報共有
- 環境対応型包装資材の活用
- 品質保証活動の徹底
- 栄養改善に役立つ製品・サービスの提供

(単位：百万円)

日本基準	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015
年度：				
売上高	948,705	951,359	1,006,630	1,184,100
売上原価	△600,630	△635,594	△659,509	△769,230
売上総利益	348,076	315,765	347,121	414,870
販売費及び一般管理費	△276,844	△253,957	△272,601	△323,989
営業利益	71,232	61,807	74,519	90,880
営業外収支、特別損益	29,595	10,754	4,529	9,272
税金等調整前当期純利益	100,828	72,561	79,049	100,153
親会社株主に帰属する当期純利益	48,373	42,159	46,495	63,427
設備投資	61,590	50,602	50,927	58,867
減価償却費	42,463	45,746	43,376	50,920
年度末：				
総資産	1,091,741	1,093,165	1,255,090	1,262,113
自己資本	635,287	594,950	669,576	619,872
有利子負債(Net)	△67,187	10,538	43,299	43,462
1株当たり(円)：				
当期純利益	¥74.40	¥68.70	¥78.50	¥107.90
純資産	1,004.4	1,002.3	1,131.4	1,066.8
年間配当金	18.0	20.0	24.0	28.0
流動性の指標：				
D/Eレシオ*1	△0.03	0.07	0.13	0.16
インタレストカバレッジ倍率(倍)	45.0	31.0	50.4	57.1
投資の指標：				
株価収益率(倍)	19.0	21.2	33.5	23.5
株価純資産倍率(倍)	1.4	1.5	2.3	2.4
収益性の指標：				
総資産当期純利益率(%) *2	4.4	3.9	4.0	5.0
自己資本当期純利益率(%) *3	7.8	7.1	7.4	9.8
効率性の指標：				
総資本回転率(回) *4	0.89	0.87	0.87	0.86

*1 D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本(有利子負債は「有利子負債-現金及び現金同等物×75%」で計算)

*2 総資産当期純利益率(ROA)=当期純利益÷期中平均総資産

*3 自己資本当期純利益率(ROE)=当期純利益÷期中平均自己資本

*4 総資本回転率(回)=売上高÷期中平均資産合計

(単位：百万円)

IFRS	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021
年度：							
売上高	1,149,427	1,091,195	1,114,784	1,114,308	1,100,039	1,071,453	1,149,370
売上原価	△757,135	△704,177	△720,118	△719,299	△696,166	△665,234	△723,472
売上総利益	392,291	387,018	394,666	395,008	403,873	406,219	425,897
販売費・研究開発費及び一般管理費	△295,315	△292,701	△302,959	△301,253	△302,191	△294,399	△305,966
事業利益*1	98,144	96,852	95,672	93,237	99,236	113,136	120,915
営業利益	99,678	83,617	78,706	53,642	48,773	101,121	124,572
税引前当期利益	98,778	86,684	80,819	54,698	48,795	98,320	122,472
親会社の所有者に帰属する当期利益	71,292	53,065	60,124	29,698	18,837	59,416	75,725
設備投資	58,459	89,677	79,417	79,632	83,666	91,834	74,102
減価償却費及び償却費	50,852	46,273	51,783	52,485	61,986	63,045	66,234
年度末：							
資産合計	1,273,893	1,350,105	1,426,230	1,393,869	1,353,616	1,431,289	1,457,060
親会社の所有者に帰属する持分	609,486	616,315	640,833	610,543	538,975	620,257	686,909
有利子負債(Net)	64,089	149,980	156,337	183,297	272,031	225,213	212,508
1株当たり(円)：							
当期利益	¥121.23	¥92.81	¥105.76	¥53.62	¥34.37	¥108.36	¥139.42
親会社所有者帰属持分	1,048.96	1,082.90	1,128.44	1,113.93	983.19	1,130.82	1,280.50
年間配当金	28.0	30.0	32.0	32.0	32.0	42.0	52.0
流動性の指標：							
ネットD/Eレシオ*2	0.19	0.31	0.32	0.36	0.57	0.44	0.36
インタレストカバレッジレシオ(倍)	58.8	44.0	43.3	38.1	32.6	49.2	45.0
投資の指標：							
株価収益率(倍)	20.9	23.7	18.0	33.0	58.5	20.9	24.9
株価親会社所有者帰属持分倍率(倍)	2.4	2.0	1.7	1.6	2.0	2.0	2.7
収益性の指標：							
総資産事業利益率(%) *3	7.8	7.4	6.9	6.6	7.2	8.1	8.4
親会社所有者帰属持分当期利益率(%) *4	11.3	8.7	9.6	4.7	3.3	10.3	11.6
ROIC	-	-	-	3.8	3.0	6.9	7.9
効率性の指標：							
総資本回転率(回) *5	0.91	0.83	0.80	0.80	0.80	0.77	0.80

*1 IFRS導入時に、経営管理のため独自に定義した利益指標
(売上高-売上原価-販売費・研究開発費及び一般管理費+持分法による損益)

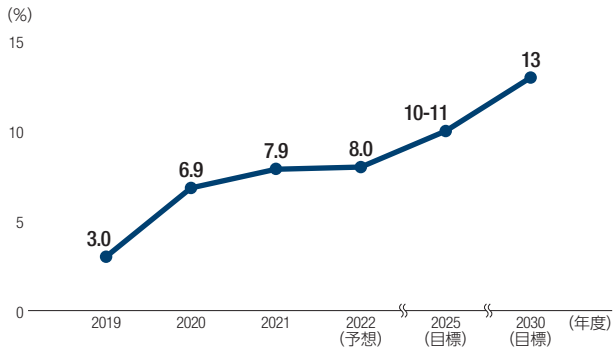
*2 ネットD/Eレシオ=有利子負債÷親会社所有者帰属持分(有利子負債は「有利子負債-現金及び現金同等物×75%」で計算)

*3 総資産事業利益率(ROA)=事業利益÷期中平均資産合計

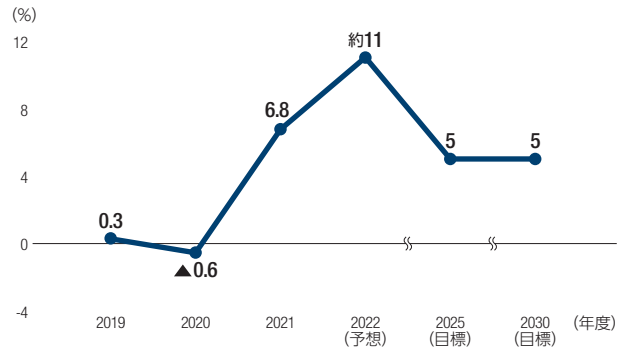
*4 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)=親会社の所有者に帰属する当期利益÷期中平均親会社所有者帰属持分

*5 総資本回転率(回)=売上高÷期中平均資産合計

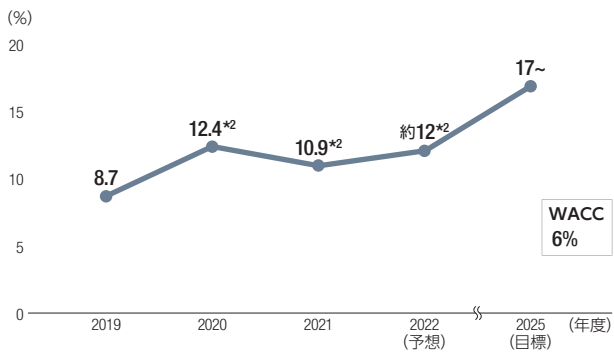
ROIC*1



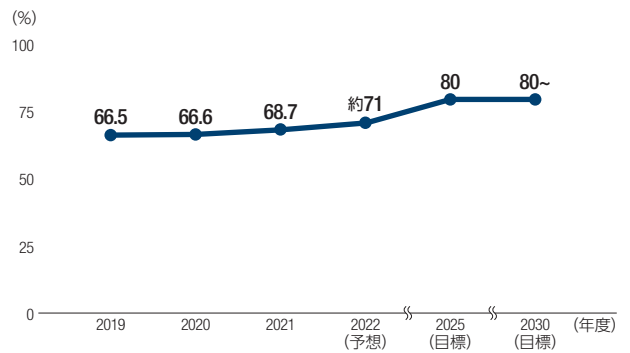
オーガニック成長率*1 (対前年度)



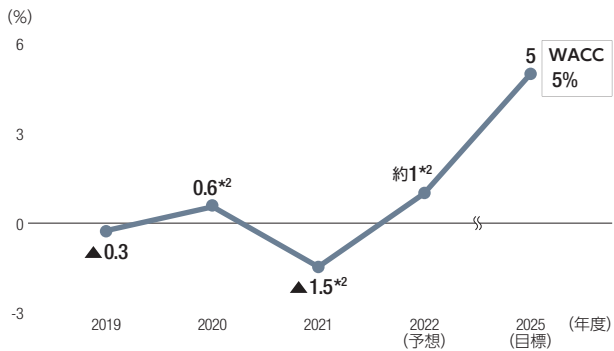
セグメント別ROIC・WACC：調味料・食品



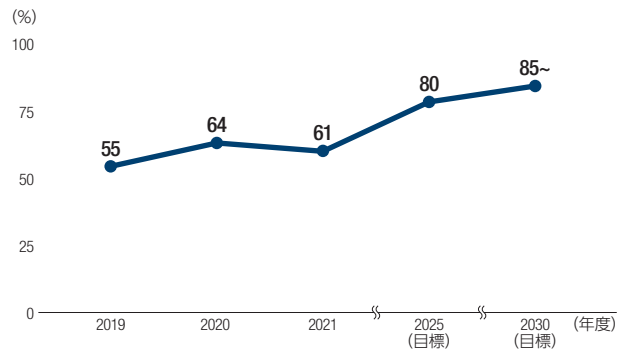
重点事業売上高比率*1



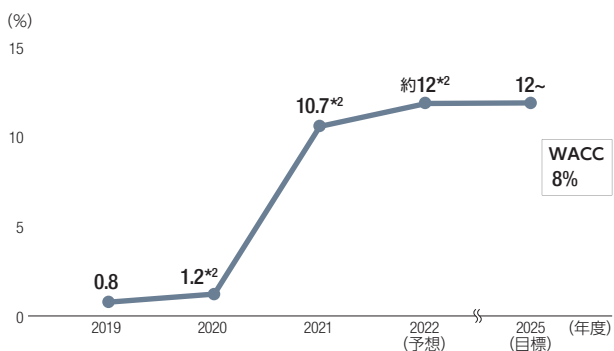
セグメント別ROIC・WACC：冷凍食品



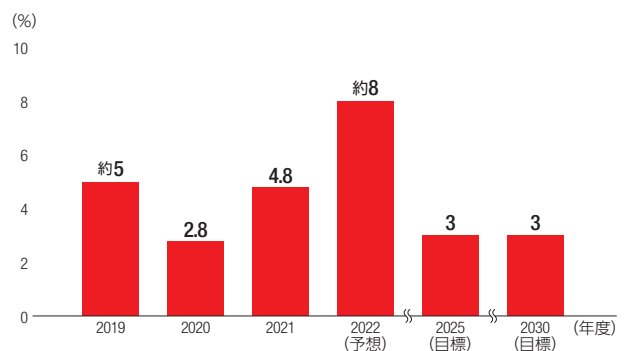
従業員エンゲージメントスコア*1



セグメント別ROIC・WACC：ヘルスケア等



単価成長率*1 (対前年度)

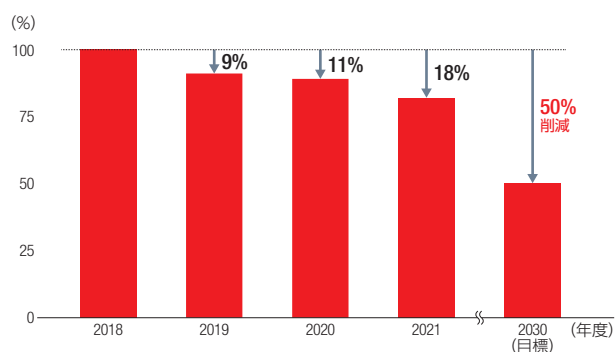


*1 P.109-110用語集参照 *2 除く構造改革費用

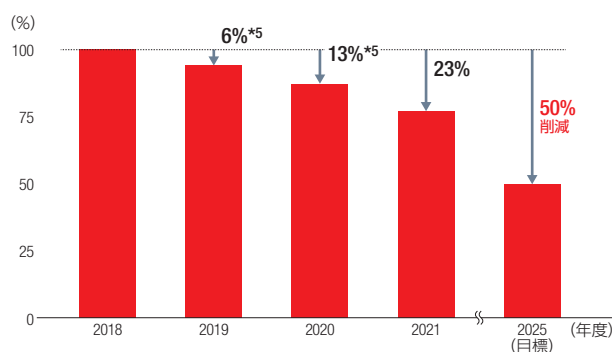
栄養コミットメントの定量KPI

	FY20(実績)	FY21(実績)	FY25(目標)	FY30(目標)
栄養価値を高めた製品*1の割合	40%*2	50%	—	60%
栄養価値を高めた製品のうち、「おいしい減塩」「たんぱく質摂取」に役立つ製品の提供	年間2.8億人	年間3.2億人	—	年間4億人
アミノ酸の生理機能や栄養機能を活用した製品の利用機会	(基準年)	1.09倍	—	2倍
従業員への栄養教育	460人	2.6万人	延べ10万人	—

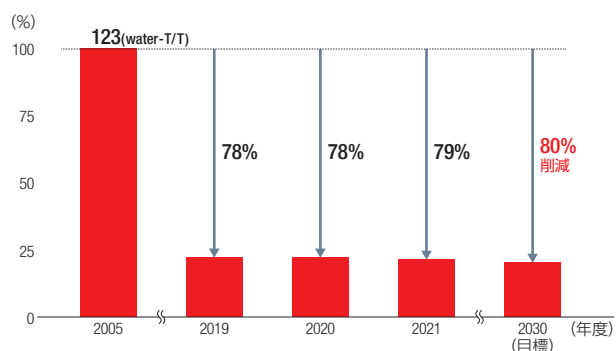
温室効果ガス排出量削減率(対2018年度)*3



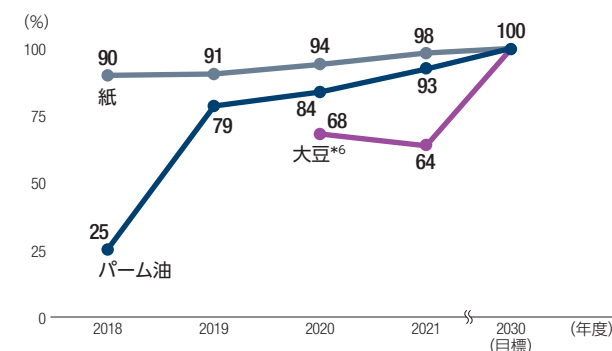
フードロス削減率(発生量対生産量原単位)*4 (対2018年度)



水使用量対生産量原単位削減率(対2005年度)



持続可能な調達比率

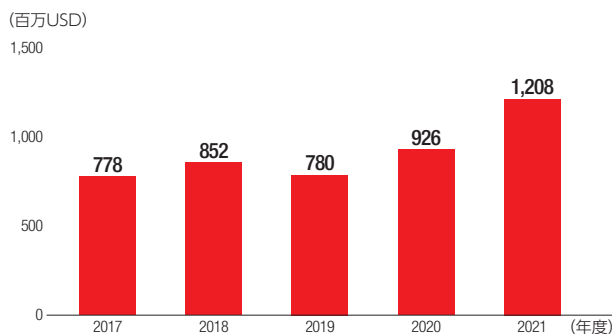


・コーヒー豆、牛肉：2030年度目標 100%

プラスチック廃棄物

2030年度目標 **ゼロ化**

コーポレートブランド価値*7



*1 国際公衆衛生の観点から重要な栄養成分の摂取の改善・強化に寄与する、当社グループの基準を満たす製品

*2 調査精度の向上により、2020年度時点で特定されなかった該当製品が判明したため、値を修正

*3 SBTi目標に対する実績 *4 原料受け入れからお客様納品まで *5 集計見直しのため修正 *6 国内事業向け調達分

*7 インターブランド社調べ。「Best Japan Brands」公表数値

味の素グループは、2022年4月1日現在36の国・地域で、事業を展開しています。

主な法人・工場等をご紹介します。



36の国・地域(日本を含む)

【うち生産工場*1 世界24の国・地域 120工場*2(日本43工場、海外77工場)】

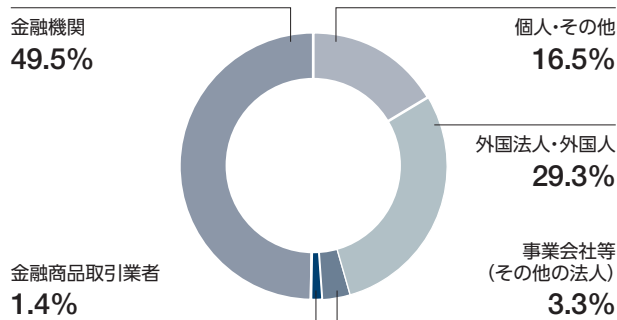
- 当社地域本部、法人
- ▲ 調味料・加工食品・冷凍食品・飲料工場 92
- ▲ アミノ酸・化成品工場 23
- ▲ 医薬工場 1
- ▲ その他工場 4

*1 生産工場は包装工場も含みます

*2 地図上に表示されていない工場もあります

社名	味の素株式会社
創業年月日	1909年5月20日
資本金	79,863百万円
従業員数	連結34,198名、単体3,252名
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで (定時株主総会：6月)
本社所在地	〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号 TEL：(03) 5250-8111(代) https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp
発行可能株式総数	1,000,000,000株
発行済株式の総数	536,996,254株
完全議決権株式数	(自己株式等) 116,400株 (その他) 536,370,500株
単元未満株式数	509,354株
株主数	120,621名(前期末比17,600名減)
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード：2802)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

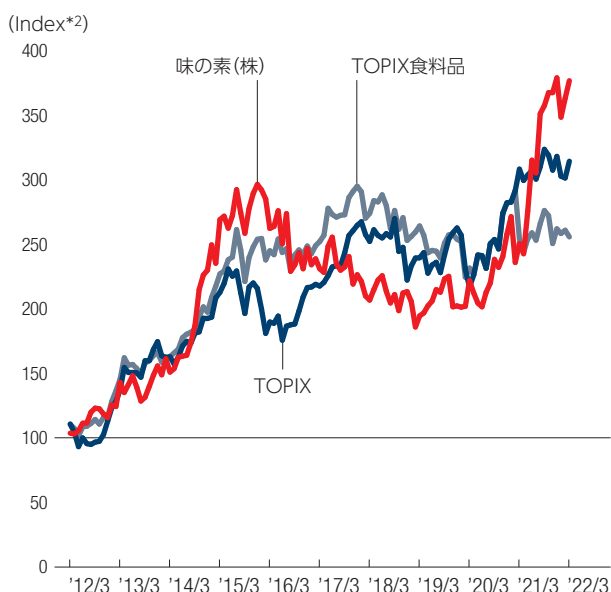
株式分布状況 (所有者別)



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	102,586	19.11
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	35,829	6.67
第一生命保険株式会社	26,199	4.88
日本生命保険相互会社	25,706	4.79
明治安田生命保険相互会社	11,362	2.12
株式会社三菱UFJ銀行	10,202	1.90
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	8,948	1.67
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口)	8,297	1.55
損害保険ジャパン株式会社	6,282	1.17
JP MORGAN CHASE BANK 385781	6,272	1.17

株価パフォーマンス(10年間)



*2 2012年3月末日の終値データを100とした配当込みの株価指数の推移

年度ごとの株価推移

年度	最高値 (円)	最安値 (円)	年度末 (円)	ボラティリティ*3
2011	1,047	847	1,038	26.2%
2012	1,416	1,018	1,415	20.0%
2013	1,594	1,236	1,475	28.2%
2014	2,782.50	1,443.00	2,634.50	26.2%
2015	3,161.00	2,404.00	2,539.50	33.6%
2016	2,702.50	2,020.00	2,196.50	28.2%
2017	2,543.50	1,853.00	1,925.00	19.2%
2018	2,188.00	1,624.50	1,769.00	25.4%
2019	2,088.00	1,626.00	2,010.50	26.1%
2020	2,527.50	1,694.00	2,265.50	28.9%
2021	3,656.00	2,135.00	3,475.00	24.9%

*3 数値は標準偏差

SRIインデックスへの組み入れ

> SRIインデックスへの組み入れ <https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/esg/evaluation.html>

Dow Jones Sustainability World Index
2014年より連続選定

FTSE4Good Global Index
2004年より連続選定

MSCI Global SRI Indexes
2011年より連続選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good

MSCI ESG Leaders Indexes
2010年より連続選定

2022 MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

主な評価・表彰

> 外部からの評価・表彰 <https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/esg/sri/2021.html>

CDP「気候変動Aリスト
(最高評価)」



第3回ESGファイナンス・
アワード・ジャパン
「環境サステナブル
企業部門」金賞



GPIFの運用機関が選ぶ
「優れた統合報告書」

GPIFの国内株式運用機関が選ぶ
「優れたコーポレート・ガバナンス報告書」

GPIFの国内株式運用機関が選ぶ
「優れたTCFD開示」

IR優良企業賞2021

健康経営優良法人2022
(大規模法人部門
～ホワイト500～)



令和3年度
「なでしこ銘柄」

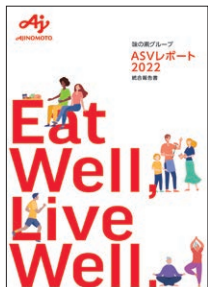


情報体系

第1階層

ASVレポート

<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/ir/>
発行日：2022年8月末



第2階層

サステナビリティデータブック

<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/databook.html>
発行日：2022年9月末

IR Data Book

<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/guide.html>
発行日：2022年6月末

有価証券報告書

<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/library/securities.html>
発行日：2022年6月末

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/strategy/corp_gov/main/0/teaserItems1/03/linkList/03/link/principle_J.pdf
更新日：2022年7月29日

コーポレート・ガバナンス報告書

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/strategy/corp_gov/main/0/teaserItems1/03/linkList/01/link/Governance2022_J.pdf
発行日：2022年6月末

中期経営計画

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/event/medium_term.html
公開日：2020年2月19日

アセットライト化	2020-2025中期経営計画で推進している資本効率向上を目的とした事業資産圧縮。重点事業に投資を集中し、非重点事業の割合を縮小するとともに、経営資源の最適配置を行うこと。
医療モダリティ	医療・医薬品分野における治療手段(創薬技術・手法)のこと。昨今は細胞医薬、タンパク質医薬、抗体薬物複合体、再生医療等の先進医療モダリティが注目を集めている。
エコシステム	価値提供(製品・サービス等)のために複数の企業・組織が協業、分業、連携する直接・間接的な共存関係
オーガニック成長率	為替、会計処理の変更、M&A・事業売却等の非連続成長の影響を除いた売上高成長率
事業利益	事業利益=売上高-売上原価-販売費・研究開発費および一般管理費+持分法による損益[その他の営業収益]および[その他の営業費用]を含まない、当社独自の利益指標
指名委員会等設置会社	日本の株式会社の機関設計の一類型で、指名委員会、報酬委員会、監査委員会の三委員会を持つ
従業員エンゲージメントスコア (ASVの自分ごと化)	自身の業務を通じてASVを実践していることを、家族・知人に話すことがある従業員の割合を、味の素グループ従業員を対象にエンゲージメントサーベイで測定
重点事業	調味料、栄養・加工食品、ソリューション&イングリディエント(S&I)、冷凍食品、ヘルスケア、電子材料の6事業
単価成長率	重量単価の伸長率
パーソナル栄養	食を中心とした生活習慣等から健康上のリスクを把握し、個々の生活者のリスク低減につながるサービス(食品、アドバイス等)を提供する事業の総称

バイオフィーマサービス	医薬品の受託製造サービス。味の素グループは低分子医薬からバイオ医薬品やオリゴ核酸まで、グローバルで一貫した医薬品の受託製造体制を整備している。
マーケティングミックスモデリング(MMM)	広告等のマーケティング施策がどれだけ成果に影響を与えたのかを推定し定量化できるよう、統計的に分析する手法
マテリアリティ	ASVを通じた短中長期の価値創造能力に実質的な影響を及ぼす因子
メニュー用調味料	具材と合わせて調理するだけで手軽におかずの1品が出来上がる、特定メニューのために調合された調味料ミックス
ASV	Ajinomoto Group Shared Value 創業以来一貫した、事業を通じて社会価値と経済価値を共創する取り組み
DX	Digital transformation / デジタルトランスフォーメーション 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもちに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること
MSG	Monosodium glutamate / グルタミン酸ナトリウム グルタミン酸は昆布等のうま味成分であるアミノ酸の一種。味の素グループではサトウキビからとれる糖蜜やでんぷんを主原料に、発酵法で製造している。
OE	Operational excellence / オペレーショナル・エクセレンス 競争優位を生み出すために、個人とチームが共成長しながら、顧客起点で全てのオペレーションを徹底的に磨き上げるという考え方・手法に基づく継続的改善・改革活動
ROIC	Return on Invested Capital / 投下資本利益率 企業が事業活動のために投じた資金を使って、どれだけ利益を生み出したかを示す指標 ROIC=(事業年度の税引後営業利益)÷[{(事業年度の投下資本)+(前事業年度の投下資本)}÷2] ※投下資本=親会社の所有者に帰属する株主資本+有利子負債
WACC	Weighted Average Cost of Capital / 加重平均資本コスト 株主資本コストと負債資本コストを加重平均した企業全体の資本コストを示す WACC={有利子負債÷(有利子負債+株主資本)}×負債資本コスト×(1-実行税率)}+{株主資本÷(有利子負債+株主資本)}×株主資本コスト

* 五十音・アルファベット順